

史学委員会 I U H P S T 分科会（第 25 期・第 6 回）

議事要旨

日 時：令和 4 年 3 月 28 日（月）10：00～12：00

場 所：オンライン開催

出席者：木本忠昭〈委員長〉、岡田光宏、河村豊、佐野正博、橋本毅彦、兵藤友博、溝口元

議 題

（１）前回議事要旨の確認

前回議事要旨を確認した

（２）CIPSH 関連報告と方針

①2021 年 12 月に南デンマーク大学（ODENSE 市）ホストで開催されたハイブリッド形式会議）の CIPSH（哲学人文学会議）臨時総会と国際 CONFERENCE について、岡田委員から報告され、了承された。なお、同会議には岡田委員のほかにも日本からの参加があった。

②次期 CIPSH 総会 & Conference は 2023 年 8 月下旬に東京で開催という方向で調整されることとなったが、その際には岡田委員が中心となって準備されるが、本分科会も支援することとした。日程としては、2023 年 8 月 20 日～24 日の提案もなされている。

③2022 年 UNESCO 世界論理デーに関連する日本行事が、1 月 15 日に開催されたことが、資料に基づいて岡田委員から報告され、了承された。

④学術会議での CIPSH との関係に関わる検討

・日本学術会議会長に対する本分科会委員長名による「C I P S H との連携強化についての要望書」を 12 月 23 日で提出し、（関連する哲学委員長、史学委員会委員長、藤原先生、第一部長にもコピー送付）事務局から、「会長宛「CIPSH との連携強化についての要望書」を拝受しております。「要望書」で検討の要望をいただいた CIPSH との連携に関して、第一部の国際協力分科会において審議予定で、そのための分科会の委員の補充を行う手続を進めて」……国際担当高村副会長には知らせた。要望書は企画課に回した、との連絡あったが、その後の連絡はないとの説明が委員長からなされ、今後の対応について検討した。

なお、本件関連としては、2021 年 12 月 27 日、ISC 加盟の国際ユニオンでの役員、国際ユニオン加盟の分科会委員長、ISC 加盟以外の国際ユニオン役員などで、小谷元子次期 ISC 会長、白波瀬副会長との懇談会（当初の会議名が、急遽変更）、ここで木本から、要望書を出したこと、日本を代表する学術会議としては人文系の国際組織との連携強化策が必要であること、関係している分科会と十

分意見を交わして対応してくれるよう要望した。この会議では他の分科会から文理融合の必要性の発言が多くあり、また地理学や、文化人類学関係からは、自分たちは、CIPSHにも加盟しているとの紹介もあったことも追加説明された。

(3) 国際基礎科学年 IYBSSD2022 の取組について

表題の取組について検討した結果、日本科学史学会が 2022 年度年会総会で予定している IUHPST/DHST 会長の Marcos CUETO 氏の記念講演を I Y B S S D 2 0 2 2 の意味合いを持たせるものとして進めるよう日本科学史学会と検討することとした。

(4) その他、

①2022 年国際会議代表派遣には本分科会推薦の橋本武彦委員が、DHST Council への派遣候補となった。

②ウクライナへのロシア軍の侵攻について、IUHPST/DHST 評議会で（一部署名所による）声明があった。資料：DHST council statement Ukrainian war

③関連団体に、日本科学史学会会長木本忠昭「「ロシア・プーチン政権によるウクライナ軍事侵攻に抗議し、即時撤退を求める」（2022 年 3 月 21 日）声明が表出された。